

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201217		
法人名	株式会社 三重互助サービス		
事業所名	グループホームさるびあ新正		
所在地	三重県四日市市新正5丁目2-6		
自己評価作成日	平成 29 年 12 月 10 日	評価結果市町提出日	平成30年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470201217-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470201217-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 1 月 18 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人に個別な支援内容を考え、その人がその人らしく生活出来るよう日々の業務を行う。気づいたところを申し送りやミーティングで話し合う。家族様への報告をこまめに行い、信頼関係を築いている。地域交流の取り組みは自治会イベントに参加させてもらっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の構造上から利用者に出せないサービスもあるが、職員は問題意識が高くそれらをしっかりと把握している。常に利用者のためになる事は何かを考えており、少しずつ実践している。自分たちだけで解決できないことは、運営推進会議に出席した家族や行政、包括支援センター、民生委員、介護相談員からアドバイスを得てサービスに生かしている。経営理念の2大中心柱の1つである地域との交流にも得られたアドバイスを参考に地域交流が行われている。また、もう1つの家庭的な雰囲気の中で利用者の尊厳を重視し快適に生活できる様に努めるは、会話が早い事や利用者の笑顔の表情からも安心していることが伺える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、「地域・家族交流、地域貢献、入居者の尊厳」を考慮して作成しており、ミーティングの際には必ず全員で読み上げ共有している。	「地域の方々と交流を大切にし、地域に貢献できるように努力する」「家庭的な雰囲気の中で入居者様の尊厳を尊重し、快適に生活できる様に努める」を理念とし、地域行事に民生委員より聞いて参加したり、普段から利用者の話を良く聞いてその人の楽しみに繋げる努力をしている。毎日、利用者の身だしなみにも気をつけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺は工場が多く、民家が少なく交流しにくい立地ではあるが、自治会に加入し自治会主催のイベントに年2～3回ほど利用者と一緒に参加している。	周辺は会社が多く日常的に交流できる民家は少ないが、自治会主催の餅つき、運動会、流しそうめん、清掃(職員)に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方に挨拶などの交流をし、近隣住民に認知症の方が生活している場所ということを理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族が参加しやすいように夕方の時間帯に開催をしている。家族・市担当者・包括支援センター・事業所職員が参加し、具体的な現状報告を行い有意義な意見交換を行っている。	民生委員、行政、包括、相談員、家族参加により2ヶ月に1回開催している。事業所からヒヤリハット・事故・避難訓練の報告、利用者の介護度の変化・暮らしぶりを伝えている。他施設の例やヒヤリハット・避難場所などの助言を参加者からもらい、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員が事業所に来所することが少ないため、分からない事や事故報告があれば、その都度訪問または電話にて連絡を行い連携をとっている。	管理者は去年の1月に採用され、5月から管理者として勤務している。試行錯誤で手探りの状況で頑張っており、何事も行政に確認する等、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居住が二階なため、安全対策として階段入口を紐で止めている。見守りを強化しているが、自由で居心地の良い空間づくりをしている。	県の社会福祉協議会主催の拘束についての研修や実務者研修に管理者や職員が参加している。その後、職員会議で社内勉強会を行って職員同士確認も行なわれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや会議などで虐待防止について意見交換を行っている。常に虐待が無いように注意を払い、防止をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度を利用している入居者様が いるため、職員は施設に講師に来ていただき 研修を行ったり社外研修で学んできたことを 情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約時には、丁寧に説明を行っている。契約 に関しての苦情はなくスムーズに契約を行 えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	各入居者様の担当者を決め、毎月最低2回 は往診の結果などを報告したり、また運営 推進会議に出席して頂き意見交換をしてい る。年一回の家族会を開催し、様々な意見 交換を行っている。	毎年7月に運営推進会議後に家族会を開催してい るが、意見交換で要望はあまりない。利用者に職 員を担当制にしてあるので定期健診後に担当職 員が結果報告をしている。その時にも意見交換を している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、月一回のミーティングな どで情報交換を行い、共有している。職員か ら出た提案などはなるべく取り組めるように している。	管理者は職員と普段の会話や会議で、意見 や提案を聞いて運営に反映させる努力をして いる。代表者と職員は会話する機会がほとん ど無いのが現状である。	職員と管理者が意見交換をして利用者への反 映努力が感じられる。それと同時に職員全体と して不安を感じており、人員不足からのサービ ス低下や事故が懸念される。それを解消すべく 職員と代表者との普段からの会話を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	管理者・職員との打ち合わせをこまめに行 い、職員個々の勤務状況を把握し、各自向 上心を持って仕事に取り組めるように支援し ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	ミーティングでの話し合いや、社内・社外研修に 参加することレベルアップを図っている。また他 事業所との意見交換を行い、それを職員に伝え 当事業所の問題を再確認し、全員で直す取り組 みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	施設部会や研修に参加したときに意見交換 を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前面談を行い、生活状況や本人様の希望を聞いて安心して入居できるように努めている。入居時には全職員が状況を把握し、不安を少しでも取り除き入居につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や見学に来ていただいた時に、本人様や家族様の意見を聞いている。本人様と家族様と共に支援していくことを伝え信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人様や家族様の状況・意見を把握し、他のサービスが必要と判断した場合は、本人様・家族様と話し合いを行いサービス利用の助言等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様を人生の先輩として敬意を持ち、物の見方、考え方を学び喜怒哀楽を共にすることを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様により良い支援が行えるように、行事の参加や報告を行っている。訪問時にも十分なコミュニケーションをとっており、協力関係が円滑に行えるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みに人の訪問時には関係継続のため話し合いなどをし支援している。	職員は利用者に年賀状を馴染みの人に出す手伝いをしている。また、来所した馴染み客と利用者の会話にも職員が積極的にに関わり、情報を得ながら関係継続の努力をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の情報や特徴を職員間で共有し、一人一人にあった支援を行っている。入居者様が孤立しないように、また入居者様同士の関係がうまくいくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も必ず様子を伺いに行っている。また、担当者への情報提供も行っている。退去された家族様に対してもなにかあれば相談しやすい工夫をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや意向はノートなどを利用し、職員全員がその情報を必ず把握できるようにしている。	職員がその日に知った利用者の思いや意向をノートに記録する他に、出勤していない職員にもメールで送信して職員全員で共有している。職員の意見もメール交換して問題解決に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別ファイルに全ての情報を載せており、職員が共有する事でよりいい支援を行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴や、性格・特徴は勿論の事、日常の過ごし方をよく観察し、個別記録に記入することで現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎週職員で協議しながら利用者全員について行っている。これをもとにケアプランは三カ月ごとに順次見直している。	毎週、職員が利用者全員のモニタリングを行っている。定期健診の医師の意見も参考に3ヶ月ごとにケアプランの見直しが行われている。変化がある時には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入は状況が把握できるような記入方法を指示している。気づいたこと・特変があった場合は細かく記入し、職員が目を通し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への通院等、本人様・家族様の状況に応じ、臨機応変に対応している。また季節に応じた企画や、散髪などを行い要望に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの訪問で利用者様により支援ができるように努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に家族へ説明する。理解して頂き署名を得る。協力医以外への通院は基本的には家族の方に行っているが無理な場合は職員で対応している。	入居時に了解を得て協力医が主治医となっている。月2回の定期健診と緊急時の対応も担っている。他科受診は家族が同伴でしており、家族同行が困難な場合に職員が受診同伴している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の看護師、社内に看護師の資格をもっている者がいるので健康状態の管理など必要に応じた支援をできるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人様に関する情報提供をし家族様とも連携し、お見舞いに行き回復状態などを把握する。退院に向け支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族様には、基本重度化した場合事業所では対応できないことを説明している。状態の様子が変わるたびに主治医の意見、家族・本人の気持ちなどを考慮し、利用者 に合った支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の対応が出来ない事を利用者と家族に説明して了解を得て入居している。重度化した時に設備や職員が整った病院や特養に移る事を利用者と家族は理解しており、それまでの支援であることで職員と利用者お互いに不安が無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の日々の状態を申し送りやミーティングを通し把握している。急変が起きた場合の対処法など常に話し合いを行い対応に備える。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	回避訓練を行い、避難場所も確認している。火災・地震を想定した避難訓練をし、全職員が避難場所を把握している。自治会・民生委員の協力は難しいのが現状。	防災マニュアルが無いが、現在作成中である。火災・地震を想定した避難訓練を実施している。避難場所は決まっているが、時々、職員が実地検分して状況変化がある時には避難場所の変更をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の服装・身だしなみは清潔を保ち、気配りを心がけている。声掛けについても人格を尊重し、プライバシー面も配慮し、ミーティングや申し送り時に確認し合っている。	服装や身だしなみに清潔と気配りを心掛けていることに利用者一人ひとりへの尊重が現れている。声掛けにも配慮している。プライバシー保護には特に配慮しており、個人情報に関する話題を慎むことをミーティングや申し送り時に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた支援をし、本人の希望や表情などを読み、なるべく自己決定が出来るよう工夫する。意思疎通ができない場合は一人ではなく他の職員に交代するなど本人の気持ちによりそう努力をし職員の連携により働きかける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様、個々のペースに合わせる。気持ち・希望にそえるよう考慮し支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時など好きな洋服を着て楽しんで頂けるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごはんと汁物は事業所で作っている。副食は給食センターに委託している。コップなどを持ってきていただいたり、テーブルを拭いたり片づけをしたりしている。	職員も利用者と楽しく会話しながら同じ食事をしている。給食センターから届くおかず以外のご飯と味噌汁は職員が作っており、美味しい米と味噌汁が提供されている。行事食として提供されている食事やおやつ、家族会での弁当、ひな祭りのちらし寿司、正月のお節、サツマイモで鬼饅頭とバラエティ豊かである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、給食センターで管理され水分量はバイタルチェック表で管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯みがきやうがいは食後に必ずし、口腔内の汚れなどに気を配っている。義歯は就寝前に預かり洗浄する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方も見えるが、リハビリパンツを使用している方もいる。一人一人の排泄パターン、習慣などは排泄チェック表を付けて把握している。なるべくオムツにならないように支援している。	寝たきりの利用者1人がオムツ使用で、布パンツが3人、リハビリパンツが4人となっている。排泄チェック表を記入して排泄パターンを把握しており、トイレでの排泄と自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防に毎朝牛乳を飲んだり定期的に飲むヨーグルトを飲んでいる。体操・散歩などの参加を促したり、便秘解消につなげている。個々の排泄は毎日把握し、主治医と対処法も相談し支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回は入浴のローテーションを組んでいる。入浴剤など利用し香やリラックスしていただけるよう、楽しんでいただけるよう努めている。	週2～3回、午前中の中の入浴が行われている。夏はシャワー浴が中心で、受診や体調変化に対応した入浴日に行っている。入浴拒否の利用者には時間を掛けて声掛けを行い、気持ちを尊重した誘導が行われている。時々、足マッサージをしてくつろげる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心した場所でゆっくりと休めるように支援している。また、体調など把握しその日の状態に合わせて声掛けなどを行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の薬は日勤者全員で確認を行い、服薬時は最後まで服薬したか見守るように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとを話したり、相談・計画をすることで生活に活力ができるように努め支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるように、晴れた日は日中散歩をしたり出かける。外食、地域イベントなど外出をする支援を行っている。	職員の人数上、利用者全員が日常的に外出する事は出来ないで個別に対応している。買い物に職員と出掛けたり、ストレスが溜まり易い利用者との散歩頻度を多くしたりしている。	2階にある事業所という建物の構造上からも簡単に利用者が外出できないのと、職員不足から日常的な外出支援が出来ないのが現状である。利用者が運動不足やストレスが溜まらない様に日常的な外出支援を期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居様が家族様からのお小遣いを預かり外出時に自分の財布から支払いが出来るように支援している。使ったお金の報告は毎月請求書と一緒に小遣い帳のコピーと領収書を送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月年賀状を家族様へ出している。電話は希望に応じ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間は利用者様がホールに集まり、レクリエーションや手芸品作りなどを行っている。前の建物を流用した事業所の為、窓などが少ないが有効に活用できるように支援している。	ホールで大半の利用者が過ごしている。テーブルは2つあるが大きくないので、多少狭くも感じるが利用者同士や職員との距離感が狭い分だけ家庭的で活発なコミュニケーションがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは狭い空間なので、台所のテーブルを使ったり、居室で落ちついて過ごせるようにソファを置いて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様はそれぞれの品を持ち込んでいる。小さな仏壇や、家族の写真など。本人様の希望により昔から好きな音楽を聴けるように支援している。	建物自体がコンパクトな作りになっているので、利用者は自室からトイレ、浴室、ホールにすぐに行ける。自室には使い慣れたものや小仏壇が置かれている。しっかり清掃されて清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の各所に手すりを取り付けたり、トイレの場所がわかる様に貼り紙を貼る。座る場所もわかりやすくするため、椅子に名前シールを付ける。		